

## 支払明細書の95%電子化

### AI関連アワードで準グランプリ

丸千代田水産㈱(石橋利幸社長)は、郵送やファクスがまだまだ主流の卸売市場の水産卸売業務で、システム導入の成果として支払明細書の95%を電子化した実績が評価されて人工知能(AI)などの活性化を目指す「第12回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2018」のユーザー部門で準グランプリに選ばれた。6日に東京都内で行われた表彰式で、プロジェクトリーダーの武井紳子経理課長に表彰状が授与された。

### 水産卸の丸千代田水産



表彰式で表彰状を受け取る武井課長(丸千代田水産提供)

昨年12月から導入したシステムのベースとなるのは、コクヨ㈱が提供している帳票生成から配信まで自動化する「伝票@TOVAS(でんぴょうあつととほす)」。元データを更新するだけで、帳票生成から仕分け、メールやファクスの配信までを自動で実行する仕組みで、まずは荷主に対する支払明細書の電子化に挑戦した。

水産卸1社が相手にする荷主は非常に多く、月々の取引も膨大な数に上る。武井課長によると、「月末になると、屋から始めた支払明細書の

発行および郵送作業で半日つぶれ、残業もというのが当たり前だった」という。

作業負荷の軽減とペーパーレス化を目指した今回のプロジェクトでは、コクヨ担当者とともに必要な帳票を設計。当初は50%程度の電子化ができれば合格点との目標だったが、95%という驚きの実績を記録した。

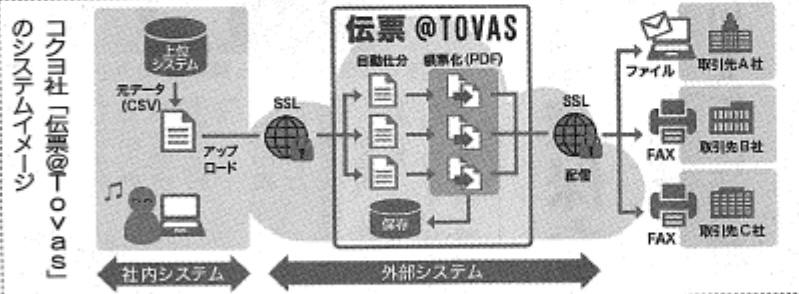
月20万円のコスト削減効果も出ている。こうした評判を聞きつけた地方の水産卸からはコクヨ側に、導入

を検討したいという問い合わせが多数寄せられているという。

丸千代田水産では現在、LinkWare(リンクウェア)@TOVASに連携する.NETデータ関連西製のIoT基盤製品)による全社的なIoT戦略の検討を進めている。水産卸や売買参加者などの販売先に対する

請求書についても「伝票@TOVAS」を使った電子化を予定している。「来年1月の導入を目指している」(石橋秀子取締役事業推進室(広報担当))という。

「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード」は、日本国内のIoT



コクヨ社「伝票@TOVAS」のシステムイメージ